

## 第 56 回建築士会全国大会 しまね大会紹介

### 3) 島根の茶室 2 隠れ茶室

隠れ茶室というと民家の中であって、公開されていないものもあれば、普段は茶室の設えがしてないのに、茶室に早変わりするものを言ったりします。ここでは、いつでも見られない茶室を紹介します。とはいえ、前回の松江の茶室の中の大寂庵もこの隠れ茶室の一つではあります。



紅雪庵

紅雪庵は松江のお茶好きが数人集まって、茶室を自分たちだけで作ったものです。いわゆる違法建築ということですが、今では知ってか知らずか黙認されています。それどころかこれぞ松江のお茶文化の象徴だとか言って、お茶専門の雑誌でも絶賛された



三谷家茶室 万雲亭

りしています。ちょっと見はバラックですが、自由闊達な建築手法を持って作られた茶室です。

三谷家にある万雲亭は 2 畳台中板の茶室です。江戸時代松江藩家老三谷家の下屋敷だったところです。床柱がユニークで松江大橋の橋脚を使ったという言い伝えであり、フナ虫が食った跡が多々あります。もちろんそれなりに太い柱です。藩政の頃の家老屋敷にはそれぞれ贅を凝らした茶室があったようです。



吉田町田部氏の切り株茶室



安来の民家澤田家茶室

大きな木の根っこ部分をくりぬいて茶室にしているのは吉田町にある田部家の茶室です。田部氏は元島根県



知事を務めた人で、菊竹氏のパトロンともいえる人です。このような特徴ある茶室を屋敷内にこしらえて楽しんでいたようです。菅田庵は松江の唯一重文指定されている茶室ですが、今は公開されていません。前回、茶室を紹介しましたが、待合がユニークです。お風呂になっています。と言っても板張りの蒸し風呂ですが、ここで、ひとつ風呂浴びてからお茶を楽しむという変わった趣向の茶室です。聴雨庵も松江の郊外の民家の一角にある茶室ですが、茅葺と瓦葺き屋根を組み合わせた風情ある茶室です。

菅田庵の蒸し風呂

聴雨庵